

ルカ 5:1-11

5:1 イエスがゲネサレト湖畔に立っておられると、神の言葉を聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せて来た。

5:2 イエスは、二そうの舟が岸にあるのを御覧になった。漁師たちは、舟から上がって網を洗っていた。

5:3 そこでイエスは、そのうちの一そうであるシモンの持ち舟に乗り、岸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして、腰を下ろして舟から群衆に教え始められた。

5:4 話し終わったとき、シモンに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」と言われた。

5:5 シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦勞しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」と答えた。

5:6 そして、漁師たちがそのとおりにすると、おびただしい魚がかかり、網が破れそうになった。

5:7 そこで、もう一そうの舟にいる仲間に合図して、来て手を貸してくれるように頼んだ。彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった。

5:8 これを見たシモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。

5:9 とれた魚にシモンも一緒にいた者も皆驚いたからである。

5:10 シモンの仲間、ゼベダイの子のヤコブもヨハネも同様

だった。すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」

5:11 そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。

シモン・ペトロが、イエス様の言葉に従って網を降ろしたら信じ難い大漁になりました。シモン・ペトロは徹夜の漁で一匹の魚もとれなかったのですから、漁師として大喜びしてもおかしくありません。でも、彼は喜ぶどころかむしろ恐れたのです。目の前に立っているのは神を体現する方であり、その言葉は神の言葉であることを知ったからです。そしてその時、彼は自分がまさに死すべき罪人であることを知った、悟ったのです。ペトロは悔い改めてすべてを捨ててイエスに従いました。皆さんはこのペトロをどう思いますか、すごいですね、ペトロを模範としましょう、となることろですが、きょうのルカの物語はちょっと込み入っています。

1) 人間をとる漁師にする。

マルコ、マタイ福音書のペトロの召命のところ（平行箇所といえます）では「漁師にする」とあります。ルカ福音書でも「人間をとる漁師にする」と訳されていますが、原文では「人間を生け捕りにするものとなる」となっているのです。イエスの預言として記されています。

2) この「漁師にする」を原文にもどしてイエス預言「人間を生け捕りにするものとなる」として読んでみると、ペトロが漁につかっている舟は教会堂に見立てることができます。ペトロの舟は比喻としての「教会堂」を意味すると古来から信じられていたようです。

この舟に生きて捕らえられて乗った人間は救われる。イエスの預言のとおり、救いの中で生きることができる。

このような意味合いになります。

4:1 イエスは、再び湖のほとりで教え始められた。おびたしい群衆が、そばに集まって来た。そこで、イエスは舟に乗って腰を下ろし、湖の上におられたが、群衆は皆、湖畔にいた。

4:2 イエスはたとえでいろいろと教えられ、その中で次のように言われた。4:3 「よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出て行った。

4:4 蒔いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。4:5 ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が

浅いのですぐ芽を出した。4:6 しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。4:7 ほかの種は茨の中に落ちた。すると

茨が伸びて覆いふさいだので、実を結ばなかった。4:8 また、ほかの種は良い土地に落ち、芽生え、育って実を結び、あるものは三

十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍にもなった。」4:9 そして、「聞く耳のある者は聞きなさい」と言われた。（マルコ福音

書4章）

ルカはこのマルコ4章の舞台設定（イエスは舟に乗って湖の上

から、群集はほとりでイエスの教えを聞く) を使ってペトロの召命を編集して記録しています。舞台設定になっている、警えを踏まえると、群集は種に喩えられ根付くもの、根付かないもののどちらかということになります。

先週の聖書箇所の子ザレの群集はイエスを崖からつきおとせおうとし、今週の場合は群集は喜んでイエスに付き従ってきていることに気づきます。

ところで、大漁の奇跡はヨハネの21章にもあります。

ヨハネではペトロが再び復活のイエスにあうのはガリラヤ湖で漁をしているときで、この時も徹夜の漁は成果なく、イエスが朝現れ、網を打てと命じ、そのとおりにすると大漁になります。イエスの復活後、ペトロの伝道によってイエスの教えがひろまり、多くの人を獲得した事実が大漁という比喻で預言されているのでしょう。

ヨハネ福音書では復活のあとの教会の行く末の預言として語られている大漁の奇跡は、ルカ福音書ではイエスの弟子召命、はじめの一步のところで同じ預言のかたち(内容的にもほぼ同じことをさしています)をとって記録されます。

最期に「主よ、わたしから離れてください」にふれます。

記事を読む限りイエスはペトロを一切、裁いていません。それどころかボーナスとして大漁を恵んでいます。裁きではなく、恵みを与えている。

しかし、ペトロはその事実に対して「離れてくれ」といった。
群集はくっついてきているのに。

おそらくペトロはおおきな恵みをもらって、その恵みの意味を
悟ったのでしょう。この悟りがわたしたち一人ひとりにも訪れ
る日がきますように。